

各科活動報告

集中治療科

担当医

○北山 仁士(集中治療科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本心臓血管外科専門医・指導医／臨床研修指導医／医学博士／近畿大学心臓血管外科客員教授

○吉川 健治(集中治療科医長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○木村 誠志(麻酔科部長)

認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医／厚生労働省麻酔科標榜医／医学博士／臨床研修指導医

活動報告

2019年度もclosedシステムのICU 4床と、ICU横に併設したopenシステムのHCU 4床を集中治療科として担当し、満床運用を心がけ、看護部門の協力を得て適時のベッドコントロールを行いながら、効率的な病床管理を行いました。

ICUは全科の集中治療を担うgeneral ICUとして、人工呼吸器、IABP、PCPS等の生命維持装置を駆使した呼吸・循環管理、血液浄化療法による体液管理から、代謝・栄養管理まで、標準かつ最先端のICU管理を行っており、ECPRの救命例も得ています。また、心臓血管外科の体制強化により、心臓血管外科手術症例数の増進に伴うICU受け入れ症例数が増加しました。

多職種による朝のICUカンファレンス、午後のICUおよびHCUの中間カンファレンス「ハドル」を行い、良好なチーム医療を実践しています。

今後の展望と課題

2019年度からのCOVID-19の影響で困難な状況も予測されますが、COVID-19重症例の受け入れも含め、引き続き満床運営を目標とします。また、ICU入室対象手術症例数の増進が前提となりますが、術後入室症例数の更なる増加を進めていきたいと考えています。

総合診療センター

担当医

○田端 志郎(副病院長／総合診療センター長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本救急医学会救急科専門医／臨床研修指導医

○藤本 卓司(救急総合診療科部長)

認定資格：ICD(Infection Control Doctor)／麻酔科標榜医／京都大学医学部臨床教授

○大矢 亮(救急総合診療科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医・JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSディレクター・インストラクター／日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医・SDH検討委員会委員／大阪府医師会ACLS大阪認定ディレクター・認定インストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了／日本老年医学会高齢者医療研修会修了／HANDS-FDF2014修了／認知症サポート医／日本HPHネットワーク運営委員

○川尻 英子

認定資格：日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・指導医

○藤本 翼(救急総合診療科医長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・JMECCインストラクター／日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医／日本救急医学会ICLSディレクター・インストラクター／大阪府医師会ACLS大阪認定ディレクター・認定インストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○杉本 雪乃

認定資格：日本内科学会認定内科医・JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLS認定ディレクター／大阪府医師会ACLS大阪認定インストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○河村 裕美

認定資格：日本内科学会認定内科医・JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSインストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○松瀬 房子

認定資格：日本内科学会認定内科医・認知症サポート医

- 木村 信之(後期研修医)
所属学会：プライマリケア連合学会
- 重原 良平(後期研修医)
所属学会：プライマリケア連合学会

活動報告

総合診療センターは、「総合診療センター外来」「ER」「病棟」「ICU」「高砂クリニック内科総合外来」「高砂クリニック訪問診療部」をフィールドとして活動しています。

ERでは2019年度もこれまで通り「断らない救急」をスローガンに医療活動を行い、2019年度救急搬送数は6,218台と過去最高を記録しました。急性期病院として地域に求められる入院診療を行いながら空床状況に関わらず救急搬送を受けるために、医学的な重症度にとどまらず社会的な入院の必要性を合わせてトリアージを行い重症度が低くとも入院が必要な患者さんは地域連携病院に入院をお願いするなど地域連携の中で患者さんの適切な療養場所につなぐ「地域トリアージ」の取り組みをさらに進めました。

教育面では2018年度の近畿大学医学部に引き続き京都大学医学部からの実習受け入れも開始しました。研修医が学生に教えることで自らの成長を実感できるようになり、屋根瓦の教育体制がさらに充実しています。

対外的な活動として研修医による内科地方会や京都GIMカンファレンスにおいて積極的に発表を行い、スタッフ医師は感染症学会総会や日本プライマリ・ケア連合学会総会、WONCA APRなどでのシンポジウムなどや書籍での執筆活動など活動の幅が広がってきました。

今後の展望と課題

活動の幅の拡がりとは比してマンパワーはなかなか増えない状況が続いており、業務の整理とリクルートが喫緊の課題となっています。総合内科を指向する内科専攻医の育成や外部からのスタッフ医師獲得にこれまで以上に積極的に取り組まなければなりません。そのためにも対外的な活動にこれまでに以上に取り組めるように院内での業務整理を進めていきます。

外来から在宅まで幅広いフィールドを持っていることが当センターの特徴ですが、現在はそれぞれのフィールドのつながりが弱く個々の医師に任されているが医療と教育の質向上及びマネジメントのために役割分担を明確にしていきます。特に初期研修の外来研修が必修化されるため、外来研修における教育プログラムを早急に整備します。

COVID-19のパンデミックによって地域連携の重要性がますます高まっている中で、求められる役割を發揮できるように引き続き研鑽を積むとともにマンパワーの確保に努めていきます。

● 循環器センター

担当医

- 石原 昭三(副病院長 兼 循環器センター長)
認定資格：日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医/日本循環器学会循環器専門医/日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医/臨床研修指導医/堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)
- 井上 剛裕(心臓血管外科部長)
認定資格：日本胸部外科学会認定医/日本外科学会外科専門医/心臓血管外科専門医・指導医/堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)
- 鈴鹿 裕城(循環器内科部長)
認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医/日本循環器学会循環器専門医/日本心血管インターベンション治療学会専門医
- 具 滋樹(循環器内科医長)
認定資格：日本内科学会認定内科医/日本循環器学会循環器専門医/臨床研修指導医/心臓リハビリテーション指導士
- 松岡 玲子(循環器内科医長)
認定資格：日本内科学会認定内科医/日本循環器学会循環器専門医/植え込み型除細動器(ICD)・ペーシングによる心不全治療(CRT)実施医
- 梁 泰成(循環器内科医長)
認定資格：日本内科学会認定内科医/日本循環器学会循環器専門医
- 小笹 祐
認定資格：日本内科学会認定内科医/日本心血管インターベンション治療学会認定医
- 鷺見宗一郎
認定資格：日本内科学会認定内科医

○南里 直実(後期研修医)

所属学会：日本内科学会／日本循環器学会

○飯田 和貴(後期研修医)

所属学会：日本内科学会／日本循環器学会

活動報告

2019年度はPCI 529件、アブレーション 114件、PTA 66件といずれも増加した年であった。病院の体制としてERへの支援が必要となる事があり当科の体制も厳しいなかで各々の件を増やす事ができ、また大きな合併症がなく経過することができた。

ABL件数は昨年度に引き続き増加した。開業医訪問や地域との勉強会などによって他院にABLの施設として認知され、医師をはじめスタッフの努力で数がのびていると思われる。

循環器内科の処置は侵襲的なものが多く合併症が死につながることもある。そのため毎週月曜日に多職種でカンファレンスを開催し振り返りを行い、改善点を検討した。また、毎日8時からカンファレンスを行うことで入院患者、カテーテル治療などについて医師間で情報を共有した。

心臓血管外科医師の着任に伴い心臓血管外科との垣根がさらに低くなり重症患者の相談を行うことで循環器内科のスタッフのレベルの向上につながったと考える。

今後の展望と課題

1) カテーテル治療のレベルの維持、件数の維持

今後、大幅な増加は見込めないかと思われるが、開業医訪問で他院からの紹介患者数は増加しており、虚血の精査加療の必要な患者様を的確に評価し、件数は維持したい。その中で合併症に注意し皆が高いレベルで治療できるように教育/指導していく。

2) 末梢動脈治療のレベルアップ

外部研修に出ていた医師1名が帰任。他院で学んだ知識と技術を当院のスタッフでも共有し、末梢動脈治療のレベルアップとフットケアチームの立ち上げに期待する。

3) 心臓血管外科との協力

心臓血管外科医師が着任。心臓の手術が必要な患者様は多く存在し、循環器内科としても手術件数の増加に貢献できればと考える。また、心臓血管外科と協議することで、心疾患に理解を高め循環器内科のスタッフのレベルアップができればと考える。

● 消化器センター

担当医

○山口 拓也(副病院長 兼 消化器センター長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○岩谷 太平(消化器内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○岡田 正博(消化器内科部長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化器病学会専門医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肝臓機能障害)

○松田 友彦(消化器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／臨床研修指導医

○河村 智宏

認定資格：日本救急医学会ICLSインストラクター

○平林 邦昭(大腸・肛門科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会認定医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(小腸機能障害)(膀胱又は直腸機能障害)

○裕野 孝治(乳腺甲状腺外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会認定医／臨床研修指導医

○吉川 健治(肝胆膵外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肝

臓機能障害)／緩和ケア指導者研修会修了

○戸口 景介(外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／厚生労働省認可麻酔科標榜医／日本消化器内視鏡学会専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医／日本ヘリコバクター学会H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医／麻酔科標榜医／緩和ケア指導者研修会修了

○外山 和隆(がん支援副センター長 兼 外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○中江 史朗(腫瘍内科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本大腸肛門学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員／日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・暫定指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医／緩和ケア指導者研修会修了

○矢野 佳子(消化器内科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／日本肝胆膵外科学会評議員

○今井 稔(外部研修)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○富岡百合子(外科医長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本救急医学会救急科専門医・ICLSインストラクター

○安田恵津子

認定資格：日本内科学会／日本消化器病学会

○櫻井 史歩(後期研修医)

認定資格：日本内科学会認定内科医

活動報告

消化器センターは大きく前進しました。消化器センター内科では食道、胃、大腸の内視鏡検査及びESDも大きく件数をのばしております。内視鏡検査では“痛くない”を合言葉にスタッフ一同邁進しております。また、上部、下部の出血に対しては24時間365日緊急対応できるように体制を強化しています。悪性疾患等による消化管閉塞に対してはステント治療を広くとりいれ、速やかな手術療法への移行を行い低侵襲な治療を可能にしています。

消化器センター外科では消化管外科、肝胆膵外科、乳腺甲状腺外科、ヘルニア外科などを主に行っています。腹腔鏡下手術が大勢を占めており、胃、大腸にとどまらず、肝胆膵まで腹腔鏡下手術で行うようになってきました。肝臓腫瘍に対しても、腹腔鏡下エコーを用いたラジオ波治療も積極的にこなっており南大阪でも指折りの件数となっております。ヘルニア外科では数多くの紹介をいただき過去最高の症例数までのびています。今年度は2台の4K内視鏡カメラへの移行を行いました。今後はロボットの導入に向かい準備中です。

2019年度もおかげさまで過去最高の緊急症例(消化管穿孔、胆嚢炎など数多い症例)をご紹介いただきました。

このように消化器センター内科、外科、専門スタッフのコラボレーションの上、患者様には最善、最短、低侵襲を合言葉に満足の高い質の高い治療を提供できていると自負しております。

がん診療拠点病院としての使命を果たすことができるよう、ますますシームレスな医療を展開し、患者さんに対して満足度の高い、質の高い治療を提供しつづけてまいります。

今後の展望と課題

○昨年以上に、がん診療もさらに充実させ、集学的治療、放射線治療導入への道筋をつけてまいります。

○専門的な治療を拡充し専門スタッフの更なるスキルアップを行い患者さん満足度の高い医療を提供してまいります。

○全職種横断的な総合カンファレンスが毎週開催となり、一層、患者さんやご家族の想いを充分かなえるような治療をチームで提案します。

○上部、下部消化管、肝胆膵分野ごとのエキスパートの育成を行い、患者さんにさらに質の高い治療を提供しつづける努力をおしめません。

○腫瘍内科、緩和ケアチームと密接に連絡をとりあい、漢方治療などの補完医療もとりいれ、質の高いケアを提供してまいります。

腎・透析センター

担当医

○大矢 麻耶(腎・透析センター長 兼 腎臓内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医／臨床研修指導医

○植田祐美子

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会認定腎臓専門医／日本フットケア学会認定フットケア指導士／臨床研修指導医

○熊澤 実

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会専門医・指導医

○林 研(非常勤)

所属学会：日本内科学会／日本腎臓学会／透析療法学会／日本下肢救済・足病学会／日本フットケア学会

活動報告

毎年透析導入は減らず、当院維持管理数も増加の一途をたどっている。当院が対応困難なこともあり地域連携クリニックへの紹介も患者様との話し合いで希望を優先し増えている状況。また今年は特に癌疾患への介入が多く、手術、透析患者でも使える化学療法の模索、BSC治療とすべてにおいて透析患者特有の状況もあり、癌支援チームとの連携を頻回にしながら関わった。複数の看取りがあったが、それぞれにこれまで以上の役割が果たせたと感じる。地域の透析病院と連携した勉強会の開催は発展をし、今後新しく他施設コメディカル主催の学習会へと展開することになった。残念ながらCOVID-19対策のため実際の開催までは至らなかったが、堺エリアでの新しい連携ができた。

2019年度後半透析室においてはCOVID-19対策に終始する事となった。幸い当院通院患者にて感染者を出さず、予防のみで過ごせた。また地域連携病院としては、疑似症患者を受け入れることとなり、多数の搬送、緊急入院があり、他院で対応困難となった患者様を当院で受け入れ透析管理を行った。

今後の展望と課題

他部署、院外部署とのしっかりとした連携、システムを作れることが課題だと考えている。

代謝・膠原病内科

担当医

○川口 真弓(代謝・膠原病内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医／リウマチ登録医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肢体障害)

○岩崎 桂子(代謝・膠原病内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／臨床研修指導医

○松廣 有紀

認定資格：日本内科学会認定内科医

活動報告

関連が強い腎臓病グループと同じ病棟でチームとしてカンファレンス・回診を行い入院・外来診療にあたっています。

【糖尿病内科】

○2019年度診療内容

- ・年間を通して教育入院患者の受け入れ
- ・糖尿病を基礎疾患にもつ重症入院患者の加療
- ・他院からの重症例の受け入れ
- ・外科系各診療科の内科マネジメント
- ・南大阪糖尿病協会糖尿病ウォークラリー共催
- ・総合病院 糖尿病紹介外来担当、サテライト診療所(高砂クリニック)での糖尿病外来を担当(約1,200名)
- ・堺北診療所 糖尿病外来を担当
- ・開業医からの紹介を受け入れ、入院及び外来フォロー等で連携
- ・研修医の教育

今後の展望と課題

外来部門との合同カンファレンスなどを通じて更なる連携を深めるとともに開業医の先生との関わりも深めていくことで多くの患者さんが安心して病気とつき合っていけるよう支えていきたいと思っています。

糖尿病診療のスキルを生かし、急性疾患のみならず、慢性疾患を診ることのできるチーム医療を目指します。その楽しさを研修医の先生にも経験してもらえるような研修システムを作っていきたいと思っています。

呼吸器内科

担当医

○緒方 洋(副病院長 兼 呼吸器内科部長)

認定資格：日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医／日本内科学会評議員・認定内科医／日本内科学会JMECCディレクター／日本救急医学会ICLS認定インストラクター・ICLS認定ディレクター・ICLS認定指導者養成ワークショップディレクター／大阪府医師会ACLS大阪認定インストラクター・ACLS大阪認定ディレクター／堺市身体障害者福祉法指定医師(呼吸機能障害)／臨床研修指導医

活動報告

気管支喘息重責発作、閉塞性肺疾患急性増悪に迅速に対応しています。

高齢者肺炎を中心に、各種肺炎、間質性肺炎の診断治療リハビリテーションに携わっています。

- 3) 気管支喘息の治療として気管支熱形成術を導入し、良好な成績を得ております。
- 4) 気管支鏡による診断精度の向上を目的として、超音波内視鏡を用いた縦隔リンパ節生検(EBUS-TBNA)、および超音波プローブを用いた抹消病変の組織検査(EBUS-GS)を導入し良好な成績を納めています。
- 5) 上記にともない、検査時間は従来と比較してながくなりがちになります。表面麻酔のみでは十分とはいえず、検査を受けられる方が苦痛を感じることがないように、積極的に静脈麻酔をおこない、苦痛の軽減に勤めております。

今後の展望と課題

検査手技の高度化、件数の増加に伴いより安全であることが求められており、引き続き安心安全の追求につとめて参ります。

呼吸器外科

担当医

○佐藤 泰之(呼吸器外科部長)

認定資格：医学博士／日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会認定医／ICD／身体障害者福祉法指定医師

活動報告

呼吸器外科の手術件数は、前年度5カ月間の21件(1年間換算で約50件)から55件と増加しています。内訳は、肺癌などに対する肺葉切除術が18件、肺癌や肺転移などに対する肺部分切除術が11件、気胸の手術が10件、膿胸に対する手術が5件、縦隔の手術が2件、手掌多汗症の手術1件を含むその他が9件となります。その内開胸手術は3件で、他は局所麻酔手術2件を除く全てが完全鏡視下での胸腔鏡手術で行っています。末期の難治性気胸の1例で再手術を要していますが、他は問題となる術後合併症はなく、全て軽快退院となっています。

前年度の展望として挙げた手掌多汗症の手術も導入でき、良好な結果となっています。

前年度の一番の課題であった手術助手の定着化が水曜日に関しては実現でき、その助手も次第にカメラワークなどに慣れ、より安全に手術時間の短縮への傾向が得られています。

今後の展望と課題

手術件数の増加に伴い、現在1～2カ月の手術待ちを生じており、本来すぐに手術した方がいい気胸や膿胸も保存的に粘らざるをえない状況であり、今後は手術枠の確保とその別枠に対応できる手術助手の確保が早急かつ重要な課題となってきています。

チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(小児科)

担当医

○藤井 建一(センター長 兼 小児科部長)

認定資格：日本小児科学会小児科専門医・指導医／臨床研修指導医／堺小児科医会理事

○田中 充

認定資格：日本小児科学会小児科専門医・指導医／臨床研修指導医

○金子 愛子(小児科医長)

認定資格：日本小児科学会小児科専門医／日本プライマリ・ケア連合学会認定医／家庭医療専門医

○瀬戸 司

認定資格：日本小児科学会小児科専門医

○森定 基裕

認定資格：日本周産期・新生児医学会認定新生児蘇生法専門コース認定

○瀬邊 翠

所属学会：日本小児科学会／日本小児感染症学会／日本小児神経学会

○阿曾沼良太

認定資格：日本小児科学会小児科専門医／JPLS小児診療初期対応コース修了／NCPR Aコース修了

活動報告

小児科医師としては、昨年度と同じ、6名の常勤医と1名の後期研修医という体制でした。9階病棟は、婦人科と内科・外科との混合病棟(33床)で、小児科は、年間1,020件の入院を受け入れてきました。地域の2次病院という位置付けで、感染症を中心に患者を受け入れていますが、川崎病や肥満症など小児特有の疾患にも積極的に対応しています。また、5年前から始めた重症心身障害児者のレスパイト入院(スマイルケア入院)も、順調に登録者を増やし、今年度は小児科入院の28%(昨年度は23%)を占め、メインの4床部屋がフル稼働している状態です。6階の産婦人科病棟では、当院出生の新生児を小児科が担当していますが、早産や低出生体重児も多く、呼吸状態の悪い新生児には、鼻に装着する人工呼吸器等を装着して、状態が悪化する前に治療介入して対応しています。そして、初期研修医の小児科研修も受け入れており、病棟医療を中心に研修指導しています。救急対応としては、2018年4月より、夜間の当直体制(日曜日を除く)に変更し、救急車や開業医・急病診からの紹介を積極的に受けて、地域の小児救急に少しでも役立てるように対応しています。

今後の展望と課題

2019年度は、救急車については月平均37件受け入れており、地域の開業医の先生からの紹介も月平均27.5件をほぼお断りせずに受けれる事が出来ました。2020年度も、開業医の先生方からさらに紹介を増やしていただけるように、連携を強めていきたいと考えています。しかし、2020年初頭からのCOVID-19感染症の流行から始まり、学校の休校等を受けて、急性期の小児患者は激減しています。また、レスパイト入院についても、感染防御の観点から、2020年3月より、受け入れを全面的に中止しています。現状では、再開の目処は立っておらず、利用者の方々に大きなご負担をおかけしています。感染の収束を見極めて、安全の確保が確認出来次第、再開していく方針としています。

チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(産婦人科)

担当医

○坂本 能基(副病院長 兼 センター長 兼 産婦人科主任部長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医／日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医・指導医／日本東洋医学会漢方専門医／母体保護法指定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○内田 学(検査科部長 兼 産婦人科医長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／母体保護法指定医／麻酔科標榜医／日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医／産業医／堺市身体障害者福祉法指定医師(小腸機能障害)(膀胱又は直腸機能障害)

○松岡 智史(産婦人科医長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医／日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了

○高木 力(産婦人科医長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／母体保護法指定医／臨床研修指導医

○三武 普

認定資格：日本産科婦人科学会専門医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了／ALSOインストラクターキャンディデート／日本母体救命システムJ-CIMELSベーシックインストラクターコース修了

○嶋田 真弓

認定資格：日本産科婦人科学会専門医

○岩田 隆一(後期研修医)

認定資格：日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了／日本DMAT隊員／AHA BLSインストラクター

○後藤 剛(後期研修医)

所属学会：日本産科婦人科学会

○小川 萌(後期研修医)

所属学会：日本産科婦人科学会

活動報告

病診連携の強化を図る努力を行っている。オンラインによる産婦人科予約システムの導入。クリニックからの緊急対応は必ずお受けする、など。

《産科》 妊婦から見た当院の魅力である以下の点を特に意識して取り組みました。

- ・総合病院であり、安全、安心、信頼がある

帝王切開率は一般病院と比較して低いが、新生児仮死が少なく、安全・安心・信頼のお産を実現できている

無痛分娩を安全に管理出来るように、ガイドライン安全基準を満たしている

超緊急帝王切開・母体救命処置法・新生児蘇生処置法を訓練し、実施できている

- ・分娩費が他院と比較して安く、良心的である

分娩一時金内に分娩費用を設定

- ・母子同室 全室個室化(差額室料は無料)

家族のふれあいの実現が達成できている

休養をとりやすい環境を提供できている

- ・立ち会い分娩 陣痛期、分娩期を通して、家族とともに過ごせる環境づくり

- ・小児科との連携強化

《婦人科》

- ・婦人科3分野、腫瘍、内分泌、ウィメンズヘルスケアを網羅している。
- ・腫瘍
がん：婦人科がん全ての癌手術が可能。放射線療法は他院と連携。
内視鏡下手術(腹腔鏡・子宮鏡)：婦人科手術の約60%は視鏡下手術。
手術は美容面に配慮し、開腹術でも術創を最小にするよう工夫している。
- ・不妊症は保険適応内診療が可能。
- ・ウィメンズヘルスケア 専門医による診療
女性心身症、更年期障害、適応障害、不安障害、産後うつ病、骨粗鬆症
婦人科内分泌学、心身医学、東洋医学をバランス良くミックスし、幅広い治療を行っている。

今後の展望と課題

- 医療の質をさらに高める努力をします。
- ・新たな命の誕生を祝福できる環境の整備を継続します。
- ・医師・助産師・看護師の数・質ともに向上させます。
- ・NICUを開設します。

泌尿器科

担当医

○田原 秀男(副院長 兼 がん支援センター長 兼 泌尿器科部長)

認定資格：日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医／堺市
身体障害者福祉法指定医師(膀胱又は直腸機能障害)／医学博士

○沖 貴士(泌尿器科医長)

認定資格：日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医／日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本がん治
療認定医機構がん治療認定医

○大森 直美

認定資格：日本病態栄養学会NSTコーディネーター／日本医師会認定産業医・健康スポーツ医

活動報告

2019年の手術総件数は492件。全身麻酔は112件であった。手術件数としては、全身麻酔の件数も含めて去年と同様に高水準を維持している。

堺市内の泌尿器科がある地域医療支援病院では、当院以外のすべてでダ・ヴィンチを所有している。従って手術内容を吟味すると悪性疾患の手術が減少し、結石などの良性疾患の手術が増加した。緊急手術も31件あったが、ほとんどが結石性腎盂腎炎に関する処置であった。

Bio jetを用いたMRI/TRUS弾性融合画像ガイド下生検は36件と伸び悩んだ。学会での発表、地域での研究会などで広く報告してきたが、紹介患者は増加しなかった。

今後の展望と課題

現在の3人態勢では、やはり手術件数は500件前後が限界である。尿路結石の手術適応患者を多く紹介して頂いている堺市立総合医療センター以外の他施設からも獲得できると考えているが、少なくとももう1人泌尿器科医が望まれる。

またMRI/TRUS弾性融合画像ガイド下生検に関しては、おそらく2-3年後には保険適応となるので、それまでに根気よくアナウンスしていきたい。

整形外科

担当医

○河原林正敏(副病院長 兼 整形外科部長)

認定資格：日本整形外科学会整形外科専門医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肢体不自由)

○吉岡 篤志(整形外科医長)

所属学会：日本整形外科学会／中部日本整形外科災害外科学会

○小松 俊介(外部研修)

所属学会：日本整形外科学会／中部日本整形外科災害外科学会

○守津 汀

所属学会：日本神経学会／中部日本整形外科災害外科学会

活動報告

- ・当院整形外科では、骨折を主とした外傷の手術に加え、脊椎手術や人工関節置換術にも力を入れています。脊椎の手術は、大半の症例を顕微鏡視下で行っております。人工関節置換術には侵襲の少ないアプローチ法を導入しております。治療を受けられる患者さんの身体への負担を極力減らすべく、当科では低侵襲手術の導入と実践に引き続き取り組んでいきます。
- ・2019年度の総手術件数は477件で、前年度の489件からやや減少しました。脊椎手術は143件で、前年度の131件からやや増加しました。
- ・2019年度に初期研修医4名の研修を受け入れました。

今後の展望と課題

2020年度には小松医師が外部研修から帰任しますので、医師体制が拡充します。整形外科診療のさらなるレベルアップを図っていきたいと考えます。

心臓血管外科

担当医

○井上 剛裕(心臓血管外科主任部長)

認定資格：日本胸部外科学会認定医／日本外科学会外科専門医／心臓血管外科専門医・指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)

○札 琢磨(心臓血管外科部長)

認定資格：日本外科学会専門医・指導医／日本心臓血管外科専門医・修練指導医／心臓機能障害植込型除細動器・ペーシングによる心不全治療実施医／日本移植学会移植認定医・植込み型補助人工心臓実施医／日本血管外科学会認定血管内治療医／ステントグラフト内挿術実施医・指導医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師

活動報告

2019年度は、スタッフの増員とともに年間の開心術数が増加しました。手術例の増加とともに医療スタッフ、地域連携、循環器センターサポートチームとの協働も増加しました。そのような状況においても不具合なく、術前からの周術期管理を安全に行えています。2018年度に、心臓血管外科専門医認定修練施設の関連施設認定(近畿大学病院の関連施設)を取得しています。大学病院からの患者様はもちろんですが、その他の専門施設からの外来患者様も含め受け入れができています。また各種学会発表参加も定期的に行っています。

今後の展望と課題

超高齢化社会のなかで、認知症、フレイル、介護保険利用、在宅医療、経済問題などの高齢者特有の問題はさらに顕著化してきています。新たな感染症時代にはいり、医療スタッフを含めた医療資源に負担をかけることも必要となります。それらに対し、限りある医療資源、介護・福祉資源を有機的に連携させ、患者様およびその家族を支える仕組みを構築し、地域でまとめることが新しい地域医療として望ましい。心不全患者様とその家族を中心とし、求められる循環器治療・ニーズに対し多職種が情報共有の重要性を再認識し、相互連携して適切な治療を提供する。心臓血管外科治療として一部でもその役割を担えるよう遠くを見据え、日々の業務に粛々と取り組みたいと考えています。

脳神経外科

担当医

○田中 禎之(脳神経外科部長)

認定資格：医学博士／日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医／日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員／日本脳卒中学会認定脳卒中認定医・指導医／日本救急医学会認定ICLS・BLSコースディレクター／日本救急医学会・日本神経救急学会認定ISLSディレクター／臨床研修指導医／共用試験医学系OSCE評価認定講習会修了

活動報告

- 2019年4月14日：第1回みみはらISLSコース 開催
- 2019年5月26日：第22回和歌山ISLSコース 参加
- 2019年6月30日：第17回和歌山生協病院ICLSコース 開催
- 2019年7月21日：和歌山ACLS研究会第59回プロバイダーコース 参加
- 2019年9月1日：第2回みみはらISLSコース/第1回みみはらISLS-WSコース 開催
- 2019年11月3日：和歌山ACLS研究会第11回アドバンスコース/第26回インストラクターコース 参加
- 2020年1月26日：和歌山ACLS研究会第59回プロバイダーコース 開催
- 2020年2月16日：第68回耳原総合病院ICLSコース 開催

今後の展望と課題

- かかりつけ医と地域連携をはかり、紹介・逆紹介患者数を増やす。
- 脳外科連携病院に、緊急治療が必要な患者を速やかに紹介する。
- 脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医、脳神経内科専門医の獲得を目指す。
- 脳神経外科専門医が獲得できれば定期手術を開始したい。
- 脳血管内治療専門医が獲得できれば定期の血管内治療を開始したい。
- その上脳神経内科専門医が獲得できれば一次脳卒中センター(PSC)を申請したい。
- さらに複数名のスタッフが揃えばSCUを設置し、24時間体制で堺市の脳卒中急性期治療を行いたい。

リハビリテーション科

担当医

○田中 禎之(脳神経外科部長)

認定資格：医学博士／日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医／日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員／日本脳卒中学会認定脳卒中認定医・指導医／日本救急医学会認定ICLS・BLSコースディレクター／日本救急医学会・日本神経救急学会認定ISLSディレクター／臨床研修指導医／共用試験医学系OSCE評価認定講習会修了／回復期リハビリテーション専従医研修会修了

活動報告

【総スタッフ数】理学療法士37名、作業療法士18名、言語聴覚士10名

【リハビリ処方数】平均月341件(回リハ病棟除く)

【入院からリハ処方までの日数】平均1.1日 2日以内の処方割合89.6%

【回復期リハビリ病棟】50床

【回リハ専従スタッフ数】理学療法士21名、作業療法士9名、言語聴覚士2名

【平均提供単位数】6.1単位(脳血管疾患7.6 運動器4.5 廃用3.5)

【平均在院日数】54.6日

【在宅復帰率】92.6%

【実績指数】平均52.0点

ICUの超急性期から一般病棟、回復期リハ病棟、緩和ケアと多方面にリハビリを提供しています。リハビリは2日以内に処方し、早期介入による廃用症候群予防、合併症予防に取り組んでいます。心臓リハビリテーション指導士による心臓リハビリを提供しています(3名研修終了)。呼吸療法認定士による呼吸リハなど専門分野に取り組んでいます(7名研修終了)。がんリハビリテーションにも取り組んでいます(26名研修終了)。一般病棟では集団レクや認知症・せん妄対策に取り組んでいます。新人教育ではユマニチュードを用いて、よりよい療養生活の提供を追究しています。

今後の展望と課題

2025年問題に向け、今後益々回復期リハビリ病棟の需要が高まると考えられます。

回復期リハビリ病棟では、提供単位数確保のため休日リハビリを導入、継続していきます。

術前呼吸器リハビリテーションが開始され、さらに多くの患者さんに介入していきます。

患者さんに必要なリハビリ単位数を受けて頂くために、さらにスタッフの増員に取り組めます。

脳外科専門医としてスタッフを教育・指導し、質の高いリハビリ医療の提供を目指します。

緩和ケア外科

担当医

○奥村 伸二(病院長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本麻酔科学会麻酔科認定医／厚生労働省麻酔科標榜医／プライマリケア連合学会指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(呼吸機能障害)／産業医／緩和ケア指導者研修会修了

○金島 正幸(緩和ケア科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医

○坂本 英代

認定資格：日本緩和医療学会認定医／緩和ケア指導者研修会修了

活動報告

2019年度は4月より新たに仲間を迎え常勤3名での診療を行うようになりました。

緩和ケア病棟での入院期間が20日前後になって数年が経過します。当院ではできるだけ早期の入院で、病棟と外来の垣根を可能な限り低くしたいと努めています。

遺族会を再開して3年目となり、これまでに10数名のご遺族の参加の元、グリーフケアに努めてまいりました。そんな中、COVID-19のパンデミックがあり3月以降の面会の制限がありましたが、緩和ケア病棟においてご家族の患者さんに寄り添いたいという強い気持ちが痛いほどわかりました。この貴重な経験をもとに、秋から始まるであろう第2、3波に備え工夫を重ねたいと思います。

今後の展望と課題

抗がん剤での治療のガイドラインが整備される中、比較的副作用の少ないものや副作用を緩和する薬などができて、以前より長く抗ガン治療を行っておられる患者さんも多くなってきています。このような患者さんや非がんの患者さんの入院へのアプローチを少し考えていかなければならない時代になったのでは？と思っています。

また、2020年1月より緩和ケアの管理医師が病院長から坂本副病院長兼産婦人科部長が緩和ケア部長代行としてその任に当たっています。緩和ケアチームの整備、入院担当医の工夫、若手医師の研修受け入れなども整備しつつより多くの患者さんに緩和ケア病棟での療養を快適に過ごしていただこうと努力していきます。

緩和病棟関連資料

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
入院数	306	297	306	199	379
延べ患者数	7,755	7,563	7,274	8,209	8,295
病床利用率	92%	89%	87%	96%	94%
平均在科日数	24.2日	22.6日	20日	24日	21.8日

紹介先のリストと紹介数

紹介元	件数
院内・法人内	199
堺市立総合医療センター	137
大阪労災病院	46
大阪国際がんセンター	25
近畿大学医学部付属病院	16
大阪急性期・総合医療センター	12
大阪市立大学医学部付属病院	10
大阪府外	9
鳳胃腸病院	6
馬場記念病院	4
大阪警察病院	4
関西電力病院	4
北野病院	3
大阪南医療センター	3
その他	65
合計	543

持続オピオイド使用人数 304名
 持続鎮静使用人数 27名
 調節型鎮静使用人数 51名

入院してから1週間ごとの死亡数

	日数	死亡数
第1週	1～7	98
第2週	8～14	69
第3週	15～21	44
第4週	22～28	30
第5週	29～35	21
第6週	36～42	13
第7週	43～49	9
第8週	50～56	7
第9週	57～63	5
第10週	64～70	6
第11週	71～77	2
第12週	78～84	2
第13週	85～91	0
第14週	92～98	0
第15週	99～105	2
第16週	106～112	1
合計		309

緩和ケア研修会修了者 2020.3月 現在 79名

緩和ケア科	奥村 伸二	消化器内科	岩谷 太平	麻酔科	木村 誠志
緩和ケア科	坂本 英代	消化器内科	斉藤 和則	麻酔科	杉山 円
緩和ケア科	金島 正幸	消化器内科	岡田 正博	病理診断科	木野 茂生
総合診療センター	田端 志郎	消化器内科	松田 友彦	循環器センター	石原 昭三
総合診療センター	藤本 卓司	消化器内科	河村 智宏	循環器センター	鈴鹿 裕城
総合診療センター	松瀬 房子	消化器内科	櫻井 史歩	循環器センター	具 滋樹
総合診療センター	安田恵津子	産婦人科	坂本 能基	循環器センター	松岡 玲子
総合診療センター	大矢 亮	産婦人科	内田 学	循環器センター	鷺見宗一郎
総合診療センター	藤本 翼	産婦人科	松岡 智史	循環器センター	梁 泰成
総合診療センター	杉本 雪乃	産婦人科	高木 力	循環器センター	小笹 祐
総合診療センター	河村 裕美	産婦人科	岩田 隆一	循環器センター	宮部 亮
腎・透析センター	大矢 麻耶	代謝・膠原病内科	川口 真弓	小児科	藤井 建一
腎・透析センター	植田祐美子	代謝・膠原病内科	岩崎 桂子	小児科	田中 充
呼吸器内科	緒方 洋	代謝・膠原病内科	松廣 有紀	小児科	阿曾沼良太
呼吸器外科	佐藤 泰之	外科	山口 拓也	小児科	森定 基裕
整形外科	河原林正敏	外科	平林 邦昭	小児科	瀬戸 司
整形外科	吉岡 篤志	外科	外山 和隆	小児科	金子 愛子
整形外科	小松 俊介	外科	吉川 健治	専攻医	北川 綾美
整形外科	守津 汀	外科	戸口 景介	専攻医	坂本 祥大
泌尿器科	田原 秀男	外科	今井 稔	専攻医	成田 亮紀
泌尿器科	沖 貴士	外科	碓野 孝治	専攻医	池田 響
泌尿器科	大森 直美	外科	富岡百合子	専攻医	河村 明子
脳神経外科	田中 禎之	組織健診科	矢野 佳子	専攻医	小川 萌
歯科口腔外科	長谷川淳子	精神科	森田 大樹	専攻医	南里 直美
心臓血管外科	井上 剛裕	精神科	金 詩園	専攻医	重原 良平
心臓血管外科	札 琢磨	放射線科	岩本 卓也	初期研修医2年	梶本 興平
腫瘍内科	中江 史朗				

精神科

担当医

- 森田 大樹(非常勤)
認定資格：精神保健指定医／日本精神神経学会精神科専門医
- 杉田 義郎(非常勤)
認定資格：精神保健指定医
- 大野 草太(非常勤)
認定資格：精神保健指定医／日本精神神経学会精神科専門医
- 金 詩園(非常勤)
認定資格：精神保健指定医
- 鈴木 基之(非常勤)
認定資格：精神保健指定医

活動報告

外来診療において、精神疾患全般の診療に当たりました。初診患者数は年間33人でした。受診年齢層は思春期から高齢層まで幅広く広がっています。対象症例としては、家庭内や職場のストレス、トラブルが原因の神経症圏が最も多く、次にうつ病、続いて認知症症状、精神病の急性期や慢性期などでした。他の医療機関からの紹介患者も多く、年間20件ありました。

当院が総合病院である為、院内他科からの診療依頼も多く、コンサルテーション・リエゾン活動も活発に行いました。

また、当院のリエゾンチームには当科医師も加わっております。このため上記のような精神科医師への直接の診療依頼に応じる形だけでなく、せん妄の患者さんを中心にリエゾンチームとして依頼を受ける形もっております。この場合には「せん妄ラウンド」と称して、週に1回のラウンド(カルテラウンドを含む)も継続して実施しております。

更には、介護老人保健施設みみはらに入所されている方の精神症状が顕著となった場合の診察や、月1回の往診も継続しました。

今後の展望と課題

当院の精神科外来診療の特色と致しましては、当院が総合病院であるため、地域の精神科クリニックとは異なり、「他科との併診」という形の多さが挙げられます。つまり、「当院他科も受診している患者さん」の当科受診希望に対応していくことは、地域のニーズに応えるために欠かせないポイントであると考えており、今後も実践していく所存であります。

また、当科は病床を有しておりませんが、他科入院中の患者さんが様々な精神症状を呈した際に、主治医や病棟スタッフと共にアプローチを講じていく、いわゆる「リエゾン・コンサルテーション」にも重点をおいていきます。上述の通り、精神科医師が直接対応する形と、リエゾンチームが対応する形で今後も継続する必要があると考えております。

更には老人保健施設みみはらへの定期的な往診を継続して実施し、施設入所者さんの精神症状に対するアプローチにも取り組んでいきます。

麻酔科

担当医

- 木村 誠志(麻酔科部長)
認定資格：日本麻酔科学会専門医・指導医／厚生労働省麻酔科標榜医／医学博士／臨床研修指導医
- 杉山 円(麻酔科医長)
認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医／厚生労働省麻酔科標榜医／日本周術期経食道心エコー認定医／日本心臓血管麻酔専門医(正式認定)／臨床研修指導医

活動報告

当麻酔科は2014年度から日本麻酔科学会認定病院となり、2015年度から麻酔科専門医研修プログラムに基づく近畿大学の病院群の基幹研修施設となりました。現在4名の常勤医と近畿大学麻酔科からの応援医師で手術室管理を行っています。新病院に移行してから5年たちますが、手術件数は2,208件、そのうち全身麻

酔症例は1,275件と順調に増加しています。麻酔科の主な業務は臨床麻酔のほか、術前術後診察、研修医指導、緩和ケアや院内ペインクリニック関係のコンサルト、など多岐にわたりますが、一番の仕事は安全な手術麻酔管理により中央手術部門を円滑に運営することだと考えています。手術麻酔管理・集中治療はともに中央部門である為、他科の医師だけではなくコメディカルの方たちとのチーム医療が重要であり、良いチーム医療を遂行することは安全性の向上のみならず、医療の質の改善にもつながるものと思ひ、日々努力しております。

今後の展望と課題

今日の当院麻酔科の課題は、絶対的な麻酔科医不足にあります。麻酔科医不足が解消されれば、今後さらなる活動を展開する予定です。

● 病理診断科

担当医

○木野 茂生(副病院長 兼 病理診断科部長)

認定資格：日本病理学会病理専門医・指導医／日本臨床細胞学会認定細胞診専門医／臨床研修指導医

活動報告

患者さまが病院に来られて、適切な治療を受けていただく為には、まず、適切な診断がなされることが必要です。その際に、しばしば「病理診断」が最終診断として大きな役割を果たしています。病理診断科の主な業務は 1. 細胞診断 2. 生検組織診断 3. 手術材料組織診断 4. 手術中迅速検査 5. 病理解剖の5つで、特に、がん死亡の2次3次予防について重要な役割を果たしています。

当科では、通常の染色や特殊染色に加え、一定の免疫組織化学的検索(50種以上)を活用し、正確な組織診断がなされる為の努力を行っています。さらに、診断に難渋する場合は、他施設の病理医を含めた検討や学会コンサルテーションなどの積極的活用を行っています。対象疾患は、内科系・外科系あるいは腫瘍・非腫瘍を問わず全ての疾患ということになります。特に、外科系であれば、消化器一般、呼吸器、婦人科、泌尿器の検体が多く、内科系では、肝生検、腎生検、皮膚生検、肺生検、骨髄生検をはじめ一般内科が取り扱う非腫瘍性病変全般も取り扱っています。また、各臓器の一般的な塗抹細胞診や吸引細胞診はもとより、細胞診断が重要な子宮がん、肺がん、膀胱がんなどのスクリーニング検査も行っています。

[主な検査機器]

1. 自動染色装置
2. 自動包埋装置
3. 自動尿標本作製装置

[カンファレンス等]

毎週行われる消化器外科、乳腺甲状腺外科、婦人科の術前術後カンファレンスに、病理医が直接参加し、総合的に患者さまの診断や治療方針に関する検討を行っています。また、解剖症例については、定例の院内臨床病理カンファレンス(CPC)を開催しています。

診断方法：

HE染色による病理組織診断、各種の特殊染色、酵素抗体染色による補助的組織診断。パパニコロウ染色およびギムザ染色による細胞診断、各種の特殊染色、酵素抗体染色による補助的細胞診断。セルブロック作製による診断。外注検査として、PDL-1、EGFR遺伝子変異解析、RAS-BRAF遺伝子変異解析、ROS-1、Her2/neu(FISH)やALK-IHC、MSI、蛍光抗体染色などの検査を利用しています。

今後の展望と課題

新専門医制度に対応するべく、専門医研修病院としての要件を満たす為に、協力いただける基幹型研修病院である大阪市立大学との連携を早期に実現していくことが求められています。初期研修の中で、選択研修としての病理診断科での研修の必要性をアピールし、総合的な意思の育成に寄与していきたいと思ひます。一方、現在、受託を行っている院所については、診断についてのさらなる精度管理、迅速性を追求し、的確な病理診断を提供できるように、随時、努力していきたいと考えています。一方、一人病理医の欠点を補うための方策として①嘱託病理医との連携②基幹型病院が行うカンファレンスへの参加③病理学会コンサルテーションや近隣の病理医のコンサルテーションの積極的活用などを追求していきます。また、現在参加している婦人科、乳腺外科、一般外科系のカンファレンスのみならず、呼吸器科や泌尿器科など他科のカンファレンスへの参加を具体化していく必要があります。

放射線科

担当医

○岩本 卓也(放射線科部長)

認定資格：日本医学放射線学会放射線診断専門医／日本インターベンショナルラジオロジー学会IVR専門医／日本核医学会PET核医学認定医

活動報告

2019年度は、CTおよびMRIの所見は検査翌日にはそれぞれ80%、87%以上の所見の返却を達成することができた。それも和歌山医大との遠隔画像診断の運営がうまくいっていることも一因と考えられる。またIVR件数も年間161件とほぼ昨年より増加し、TACEやシャントPTA、中心静脈ポートを中心に各科の依頼に対応できている。

今後もより一層、各科の診療に貢献したいと考えている。10月には放射線科看護師に対し、“TACEについて”の勉強会を、12月には院内の勉強会で、主任看護師研修において“中心静脈ポート留置術”の講演をおこなった。

今後の展望と課題

和歌山医大放射線科との遠隔読影システムの運用をうまく行い、一層の所見時間の短縮や内容の充実を目指し、読影量の増加にも対応したいと考えている。また日本医学放射線学会認定の修練機関として認定されており、その甲斐もあって2020年4月より常勤医の増加を医局から確約できた。

歯科口腔外科

担当医

○長谷川 淳子(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

○岸本 裕充(非常勤医師)

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 主任教授

○船岡 勇介(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

○服部 洋一(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

○押谷 将之(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

活動報告

2019年12月以降、兵庫医科大学 歯科口腔外科学講座より先生を派遣していただくことで、今まで当院で行っていない症例の全身麻酔下手術を行うことができ、当院での適応手術の幅を増やしました。また、日常診療について、耳原歯科診療所より診療の歯科診療機材の貸し出し経路を確立しました。さらに耳原歯科診療所歯科医師と当院歯科医師で患者に関する連絡を取り合える環境を作り、連携を高めることができました。

除石用の器具を10本、歯面清掃器具を20本を新に購入し、感染対策に力を入れました。

2月19日に兵庫医科大学病院歯科口腔外科主任教授 岸本裕充先生による、病棟の看護師、介護士、訪問看護師、衛生士向けの口腔機能管理に関する講義を開催しました。

今後の展望と課題

2020年度は新しく着任された柳澤部長とともに、手術症例の幅をさらに広げ、紹介率の増加を目指します。また、耳原歯科診療所との連携強化を行うことや、退院後のかかりつけ歯科への逆紹介数の増加、さらには、在宅歯科治療への紹介件数を増やすことで、患者のデンタルIQの向上や肺炎入院患者の再入院の減少を図りたいと思います。加えて、スタッフのスキルアップのため他院見学や研修への参加などを行い、日々の診療に役立てたいと考えています。

一方、診療室のスペースが限られており、患者様にご不便をおかけしていますので、労働環境の整備がよりよい診療には必要と考えます。

したがって、診療上のハード面、ソフト面の改善が望まれます。

